



©武藤 章

上岡 敏之 [指揮] Toshiyuki Kamioka, conductor

東京藝術大学でマルティン・メルツァーに指揮を師事し、作曲、ピアノ、ヴァイオリンも並行して学ぶ。後に、ロータリー国際奨学生としてハンブルク音楽大学に留学し、クラウスペーター・ザイベルに指揮を師事。キール市立劇場ソロ・コレペティートル及びカペルマイスターとして歌劇場でのキャリアを開始。ヘッセン州立歌劇場音楽総監督、北西ドイツ・フィル首席指揮者、ザールランド州立歌劇場音楽総監督、ヴッパータール市立歌劇場インテグランド兼音楽総監督等を歴任。手兵ヴッパータール響とは二度の日本ツアーも大成功させた。2016年9月より新日本フィルの第4代音楽監督に就任。また、コペンハーゲン・フィル首席指揮者、ザールブリュッケン音楽大学指揮科正教授も務める。2007年第15回渡邊暁雄音楽基金 音楽賞・特別賞、2014年第13回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。



©K.Miura

新日本フィルハーモニー交響楽団
New Japan Philharmonic

「一緒に音楽をやろう!」1972年、指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年より墨田区「すみだトリフォニーホール」を本拠地とし、同ホールで日常の練習と公演を行う日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会等で高い評価を得る一方、学校・福祉施設等での地域に根ざした演奏活動も特徴的。99年小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任。2003年から13年まで、クリスティアン・アルミンクが音楽監督を務め、06年『火刑台上のジャンヌ・ダルク』で第3回三菱信託音楽賞奨励賞、09年『七つの封印を有する書』で第18回三菱UFJ信託音楽賞受賞(以上アルミンク指揮)。同年「ハイドン・プロジェクト」(ブリュッヘン指揮)で第22回ミュージック・ベンクラブ音楽賞受賞、11年「ペーターヴェン・プロジェクト」でも絶賛を博した。2010-2011シーズンより6年間、ダニエル・ハーディングが「Music Partner of NJP」を務め、13年9月から2年間、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residenceを務めた。16年9月、指揮者上岡敏之が音楽監督に就任。
<http://www.njp.or.jp/>

グスタフ・マーラー

交響曲第6番イ短調『悲劇的』

グスタフ・マーラー(1860-1911)の交響曲第6番『悲劇的』は1903年から1905年にかけて作曲された。作曲当時のマーラーは、ウィーン宮廷歌劇場の指揮者として多忙な時間を過ごしながら、妻アルマとの満ち足りた新婚生活を送り、二人の子宝にも恵まれ、彼の人生の中で最も幸福な時期を迎えていた。

そうした幸福な生活の中で作曲された交響曲でありながら、マーラー自身がそう名付けたわけではないにせよ、「悲劇的」のタイトル通り非常に暗く絶望的なその音楽は私たちに多くの疑問を抱かせる。とりわけ第4楽章で2度打ち鳴らされるハンマーの響きはしばしば、この交響曲の完成後に訪れる2つの悲劇、すなわち最愛の長女の死と自らの心臓病を予見しているとか、あるいはマーラーの死後に20世紀を引き裂くことになる2つの世界大戦を予見しているなどと語られてきた。しかしそうした想像はこの交響曲の理解にはあまり役に立たない。

前作の交響曲第5番で純粋な器楽交響曲の新たな可能性を模索したマーラーは、この交響曲第6番でさらにその歩を進めていく。交響曲第5番では巨大なスケルツォ楽章を中心とした5楽章のシンメトリー構造に挑んだマーラーであったが、この交響曲第6番ではより古典的な交響曲の構造が採用されており、従来の交響曲の4楽章構成に従っている。また第1楽章では、自由な逸脱は見られるもののしっかりとソナタ形式に基づいて作曲している。フォルムの点では古典的な交響曲の形式に立ち返ったマーラーであったが、その響きはそれまでにない非常に新しいものであった。極限まで拡大されたオーケストラは膨大な数の打楽器を含み、とりわけカウベルとハンマーの響きもたらす効果は、非常に革新的なものである。マーラーがこの交響曲第6番で成そうとしたことは、あえて古典的な構成を取って形式美を際立たせながら、人間の普遍的な悲劇性を交響曲という枠組みの中で爆発させることだったのだ。ギリシャ悲劇のような人間普遍の悲劇性を描くには全体を支配するイ短調という調性ととも、形式美は不可欠であった。よってこの作品をマーラーの個人的な悲劇的体験(しかも作曲当時はまだ起きていなかっ

た)と重ね合わせることは、あまり意味のないことなのである。マーラーはこの交響曲で、ベートーヴェン以降誰も到達できなかった交響曲という山の頂に登ろうとしていた。

第1楽章はイ短調の葬送行進曲風の第1主題が低弦楽器の重々しい刻みに乗って提示されて幕を開ける。次いで木管楽器によるコラル風の謎めいた響きに導かれてへ長調の女性的な第2主題が現れる(この主題はしばしばアルマの主題とも呼ばれる)。第2主題は大きくうねりながら盛り上がるがスネアの響きが聴こえてくると再び第1主題の葬送行進曲が姿を現す。展開部はさらに激しく盛り上がるが遠くからチェレスタの響きとともにカウベルの音が聴こえてくると幻想的な情景が浮かび上がる。最後は第2主題が支配的になり、輝かしい響きでこの楽章を終える。

第2楽章は変ホ長調の緩徐楽章で、第1楽章の暗い楽章とは異なる美しく牧歌的な音楽である。この楽章でもカウベルの響きが姿を現し、聴くものを違う世界へと誘う。しかしそれは同時に「悲劇的」な第1楽章を思い出させる効果をも含んでいる。

第3楽章は第1楽章と同じイ短調によるスケルツォ。しかしこれは従来の軽やかなスケルツォではない。暗いレントラー風のスケルツォは、「古風に」と指示されながらも拍子が非常に不安定なトリオを挟みながら、重々しく進んでいく。

第4楽章は非常に長大な楽章で、チェレスタとハーブのグリッサンドによる忘れがたい響きに導かれて始まる。ヴァイオリンによる第1主題の提示に続いて、バスチューバが不気味な第2主題をはっきりと示す。そして主部が始まると音楽は激しく英雄的な闘争を繰り広げる。途中何度も冒頭のグリッサンドが音楽を中断するとともに、ハンマーによる大地を裂くような響きが2度鳴り響く。最後は静まり返った静寂を、第1楽章第1主題のモチーフが残酷に打ち破りこの交響曲は幕を閉じる。

八木宏之(ソルボンヌ大学 音楽学)

創立1972年
公益財団法人
新日本フィルハーモニー交響楽団

■音楽監督
上岡 敏之

■桂冠名誉指揮者
小澤 征爾

■ミュージック・アドバイザー
ゲルハルト・ボッセ

■永久指揮者
齋藤 秀雄

●フレンド・オブ・セイジ
ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ

新日本フィル・
ワールド・ドリーム・オーケストラ

■音楽監督
久石 譲

■文芸部
吉井 澄雄(舞台照明家)
新井 鷗子(音楽作家)

新日本フィルハーモニー交響楽団
特別演奏会プログラム
2017年3月発行 非売品
発行 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団
〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-3
すみだトリフォニーホール内
Tel.03-5610-3820(代表)
03-5610-3815(チケットボックス)
www.njp.or.jp

レイアウト・印刷 (株)東京印書館

●ソロ・コンサートマスター
崔 文洙

●ソロ・コンサートマスター
豊嶋 泰嗣

●コンサートマスター
西江 辰郎

●第1ヴァイオリン
堀内 麻貴 ○

●第1ヴァイオリン
山田 容子 ○

●第1ヴァイオリン
一重 弘子

●第1ヴァイオリン
稲垣 桃子

●第1ヴァイオリン
岸田 晶子

●第1ヴァイオリン
古田山 倫世

●第1ヴァイオリン
澤田 和慶

●第1ヴァイオリン
塩澤 菜美

●第1ヴァイオリン
宗田 勇司

●第1ヴァイオリン
竹中 勇人

●第1ヴァイオリン
田村 直貴

●第1ヴァイオリン
松宮 麻希子

●第1ヴァイオリン
山口 幸子

●第1ヴァイオリン
山本のりこ

●第1ヴァイオリン
山本のりこ

●チェロ
川上 徹 ○

●チェロ
多田 麗王

●チェロ
弘田 徹

●チェロ
ステイヴン・フィナティ

●チェロ
森澤 泰

●チェロ
矢野 晶子

●コントラバス
竹田 勉 ★

●コントラバス
渡邊 玲雄 ★

●コントラバス
城 満太郎 ○

●コントラバス
片岡 夢見

●コントラバス
廣嶋 嘉人

●コントラバス
村松 裕子

●コントラバス
藤井 将矢 □

●コントラバス
菅沼 希望 □

●フルート
白尾 彰 ★

●フルート
荒川 洋 ☆

●フルート
野口 みお

●フルート
野口 みお

●ホルン
吉永 雅人 ★

●ホルン
金子 典樹

●ホルン
田島 小春

●ホルン
田中 雅樹

●ホルン
藤田 麻理絵

●トランペット
服部 孝也 ★

●トランペット
伊藤 駿 ★□

●トランペット
市川 和彦

●トランペット
杉木 淳一郎

●トロンボーン
山口 尚人 ☆

●トロンボーン
奥村 晃

●トロンボーン
宮下 宣子

●バストロンボーン
門脇 賀智志

●チューバ
佐藤 和彦 ★

●ティンパニ
川瀬 達也 ★

●ティンパニ
近藤 高顕 ★

●パーカッション
小島 光

●パーカッション
腰野 真那

●オーボエ
金子 亜未 ★

●オーボエ
古部 賢一 ★

●オーボエ
浅間 信慶

●オーボエ & イングリッシュホルン
森 明子

●クラリネット
重松 希巴江 ★

●クラリネット
植木 章 □

●クラリネット
鈴木 良昭(楽友)

●クラリネット & Esクラリネット
中館 志志 ☆□

●クラリネット & バスクラリネット
マルコス・ベレス・ミランダ ☆

●ファゴット
河村 幹子 ★

●ファゴット
坪井 隆明 ★

●ファゴット
石川 晃

●ファゴット
佐久間 大作

●インスペクター
城 満太郎

●インスペクター
吉鶴 洋一

●インスペクター
浅間 信慶

●ステージ・マネージャー
成瀬 清明

●ステージ・マネージャー
飯野 秀明

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ホルン
吉永 雅人 ★

●ホルン
金子 典樹

●ホルン
田島 小春

●ホルン
田中 雅樹

●ホルン
藤田 麻理絵

●トランペット
服部 孝也 ★

●トランペット
伊藤 駿 ★□

●トランペット
市川 和彦

●トランペット
杉木 淳一郎

●トロンボーン
山口 尚人 ☆

●トロンボーン
奥村 晃

●トロンボーン
宮下 宣子

●バストロンボーン
門脇 賀智志

●チューバ
佐藤 和彦 ★

●ティンパニ
川瀬 達也 ★

●ティンパニ
近藤 高顕 ★

●パーカッション
小島 光

●パーカッション
腰野 真那

●オーボエ
金子 亜未 ★

●オーボエ
古部 賢一 ★

●オーボエ
浅間 信慶

●オーボエ & イングリッシュホルン
森 明子

●クラリネット
重松 希巴江 ★

●クラリネット
植木 章 □

●クラリネット
鈴木 良昭(楽友)

●クラリネット & Esクラリネット
中館 志志 ☆□

●クラリネット & バスクラリネット
マルコス・ベレス・ミランダ ☆

●ファゴット
河村 幹子 ★

●ファゴット
坪井 隆明 ★

●ファゴット
石川 晃

●ファゴット
佐久間 大作

●インスペクター
城 満太郎

●インスペクター
吉鶴 洋一

●インスペクター
浅間 信慶

●ステージ・マネージャー
成瀬 清明

●ステージ・マネージャー
飯野 秀明

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林 知也

●ライブラリアン
林